

[各校の重点取組について]

- ①『あいさつ自分から』を合言葉に、進んで挨拶する生徒を育てる。 ②心の通い合う教育活動を展開し、自尊感情を高める。
 ③基礎・基本の学力定着を図り、それらを活用する能力を育てる。 ④家庭・地域との連携を密にし、地域に信頼される学校を作る

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 校種間連携の取組を促進し、滑らかな成長を推進する		3	3
取組とその成果	課題と改善策		
(1) 学力向上のため、朝学習や毎日の宿題、テスト前計画学習など家庭学習の習慣化をさせようとした。また、教員の授業力向上のため、校内研究会や授業改善アドバイザーの積極的な活用(36歳以下全員)を図った。 (2) 通常学級において支援を要する生徒が増えている。個に応じた指導法が必要であり、職員会議での情報共有、外部講師を呼んで発達障害の生徒の学習支援について研修会で学んだ。 (3) 『あいさつ自分から』を共通目標とし、明城小学校、金楽寺小学校と共に、朝礼、学年集会、学校だより等あらゆる機会に呼びかけていった。また、夏の小中合同研修では、カウンセリングについて研修し、分科会で意見交流をした。日ごろから生徒指導事案の情報交換はしている。	(1) 中2到達度調査(2月)は市内平均を上回っていた。中3実力調査(11月)は市内平均を下回っていた。学習規律の確立と家庭学習の習慣化が喫緊の課題である。今年度から変わった『公立高校の新通学区域』の結果を分析し、学びたい学校へ進学できる力を身につけていきたい。1年時からのキャリア教育(したいことを見つける)、学力向上(高校選びができる学力を見につける)をめざしたい。 (2) 特別な支援を必要とする生徒の、小学校での様子や指導した経過を情報交換していく。また、指導法の工夫をし、誰もが分かる授業をめざす。 (3) 『あいさつできる子どもになろう』を小中で引き続き取り組みたい。		
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、良好な人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、問題行動の未然防止を図る (3) 相談体制充実の取組を促進し、不適応行動への早期対応及び長期欠席の改善を図る (4) 進路指導充実の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		2.5	2.5
取組とその成果	課題と改善策		
(1) 道徳の時間を確保し、毎月の学年道徳、公開道徳(年2回)などを実施し、他者を思いやる心、自尊心の向上などを学んできた。 (2) 『時を守り、場を清め、礼を正す』を生活の基本とし、生徒指導上の問題行動には初期対応(その日が基本)を素早く丁寧に行い、保護者に理解してもらい、共に解決する方法を考えようとしてきた。 (3) 長欠、不登校生徒を前年度より減少させるため、日ごろの家庭訪問、クラス生徒の働きかけ、関係機関の協力などを繰り返し、孤立させないように取り組んだ。関係機関とのカンファレンスを複数回実施した。 (4) 1年時より、計画的に進路指導する。特に、公立高校の新通学区域に関する情報を1・2年時より提供し、保護者の不安に応えようとした。	(1) 『命の尊さつながりを学ぶ環境教育』をテーマに、他校にない特色ある教育活動(体験学習)を行い、生徒の満足度は高い。ただ、活動が定着したことにより目的意識が薄れてきている。また、教員のリーダー不足も課題である。 (2) 携帯電話やスマホによるトラブルが増え、今までと違った指導法が求められてきている。 (3) 一時減った不登校生がやや増加傾向にある。原因は様々であるが、保護者の協力が必須であり、関係機関の力も積極的に借りたい。 (4) 新通学区域の情報提供がまだ不十分である。行きたい学校へ進学するために必要なことを、①年次～計画的に進めたい。		

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.5	3
<p>(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る</p>		
取組とその成果	課題と改善策	
<p>(1) 養護教諭と家庭科教員が計画を立て、健康教育を行った。市のヘルスアップ事業として、保健所に来てもらい、野菜摂取の必要性を授業してもらった。また、家庭からの愛情弁当の有用性と中学校弁当の活用を訴えてきた。 (2) 「早寝 早起き 朝ご飯」を朝礼や学級活動で繰り返し指導し、健康な一日の過ごし方を示した。</p>	<p>(1) 食育に関しては、生徒に対しては指導できているが、保護者に対する啓蒙が必要と感じている。コンビニで弁当で済ます生徒はまだ減らない。 (2) 夜型の生徒がまだ多くみられ、非行や欠席にもつながっている。規則正しい生活習慣は、全てに先んじて大切であることを保護者にも伝えていきたい。</p>	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.5	3.5
<p>(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る</p>		
取組とその成果	課題と改善策	
<p>(1) 学校施設、通学路における危険箇所は報告をうけた日に改善した。また、露出事案の際は、関係機関が迅速に対処してくれたおかげで、連続していない。 (2) 『学校は地域の防災拠点であり、地域の子どもの命を守る使命がある』という認識のもと、教員は常に危機意識を持つこと、生徒には、年2回の防災訓練を通じて、とっさの行動力と自分の命は自分で守る意識を身につけさせるよう指導している。</p>	<p>(1) 校務員さんの日々の目利きと迅速な対応で、校内の危険箇所はない。また、学校の迅速かつ積極的な対応に、関係機関も信頼を寄せてくださり、不足の事態が起こらないような引き続き連携していきたい。 (2) 『防災マニュアル』の見直しを毎年行い、年度当初に職員会議で確認しあっている。また、身の周りの整理整頓や備蓄倉庫の説明などを通して、他校にない積極的な防災教育を行っていききたい。</p>	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
<p>(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力向上を図る (2) 地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る (3) 学校評価活用の取組を促進し、学校運営の改善と発展を図る</p>		
取組とその成果	課題と改善策	
<p>(1) 教員の年齢層が、36歳以下と46歳以上に完全に二分化している。主要な校務分掌を若手が担い、ミドルリーダーの育成と学校全体を見る視点を養うことを求めた。 (2) 10月25日(土)に『開校10周年記念式典』を開催できた。これを機に再度、開校までの苦労や本校の教育目標を学んだ。地域に開かれ愛される学校作りの必要性を、みんなで感じる1年であった。式典にあたり多くの協力に感謝したい。 (3) 昨年度の学校評価を全教員で読み合わせ、新しく赴任した教員にも、学校や地域の課題を伝えた。</p>	<p>(1) 教員採用数整関係で、年齢層が偏るのは仕方ない。ミドルリーダーの育成と、全教員の授業力・生徒指導力を高める研修、適材適所の校務分掌をこころがけたい。 (2) 学校行事には多くの保護者や地域の方が来てくださり、応援団になってくださっている。本校の特色ある活動に地域資源を借りていきたい。また、HPも適宜更新し情報発信したい。 (3) 今年度の学校評価は、新しく赴任する教員を含めて全教員で読み合わせをし、同じ目標を持って新年度に向かいたい。</p>	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	3
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
(1)『自学自習 共汗共生 敬愛慈恕 文化創造』の精神で、環境教育や命の教育など、特色ある教育を実施した。 (屋上庭園、ラブリバー活動、妊婦体験、21世紀の森活動、ソーラーカー、駅前募金活動など) (2)今まで中心的に推進した教員が異動したため、組織的に特色ある教育活動を継続していけるよう、担当者と担当部署を分担した。	(1)県下小中学校で唯一の『ユネスコスクール』としての活動を意識することで、特色ある活動を続け、社会貢献となることや自己肯定感の醸成につなげていきたい。 (2)中心的な教員が異動し活動の精選が必要であった。今後も、実施学年や実施時期、費用負担、主体は誰かなど協議しながら、持続可能な活動としていきたい。		

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		2.5	2.5
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
(1)(2)研究テーマは、『自ら考える場面を設定し、活用・応用できる能力を身につける』と設定した。自ら考える時間を授業の中に入れ込み、自分の考えを持ち発表できる力を養わせようとした。	(1)(2)教員は、自分で考える力をつける必要を感じている。Ipadを使った授業やグループ学習も取り入れている。しかし、基礎学力の定着に時間がかかり、応用力をつける活動が十分とはいえない。基礎・基本は大切にしながら活用型授業に取り組みたい。		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策		